

▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽

広島県緑化センターメールマガジン VOL.304 H27.9.21

△▽△▽▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▼△▽△▼▲▼▲▼△▽△▼▲▼▲

朝夕の温度が20℃以下になり、秋らしくなってきました。園内では落葉が始まった樹木もあり、カツラの葉は醤油の様な香りを漂わせています。

★ 開花情報

アケボノソウ（曙草） リンドウ科センブリ属（写真1左）

花冠の内側の模様が特徴的で、径1.5mmの黄色い蜜腺を月に、濃緑色の小さな斑点を星に見立てると、夜明けの空を彷彿させます。このことからアケボノソウの名がつけました。1年目はロゼット状で、2年目から茎を伸ばして花をつけます。山地の湿り気のある場所に生育します。

場所：レストハウス谷浴い奥、東山作業路他

マツムシソウ（松虫草） マツムシソウ科マツムシソウ属（写真1右）

高原などに群生する2年草で、薄紫色の花が高原の風に揺られる姿を想像する方も多いのではないのでしょうか。名前の由来は、マツムシ（スズムシ）の鳴く頃に咲くことからという説、また花後の頭花が六部巡礼の松虫鉦に似ていることに由来する等、諸説あります。中部地方以北や、四国地方の高山には草丈の低いタカネマツムシソウが自生します。

場所：管理事務所前

ヒガンバナ（彼岸花） ヒガンバナ科ヒガンバナ属（写真2左）

史前帰化植物で、稲作と同時に渡来したといわれています。彼岸の頃に真っ赤な花を咲かせるのでヒガンバナと呼ばれています。深緑色の葉は花の時期には見られず、冬に姿を現しますが、夏には見られなくなります。別名をマンジュシャゲといい、シロバナマンジュシャゲと呼ばれる白い花の品種があります。

場所：管理事務所前

アキチヨウジ（秋丁子） シソ科ヤマハッカ属（写真2右）

落葉広葉樹林の谷筋等の半日陰の場所に自生する草本で、茎は四角形で直立しますが、花期にはよく斜めに傾いています。茎の先や葉のわきから花穂をだし、青紫色の花をつけます。花冠の長さはおよそ2cmで、筒部が長いのが特徴です。名前の由来は秋に丁子形の花をつけることに因みます。

場所：中水池下

キンモクセイ（金木犀）モクセイ科モクセイ属（写真3左）

キンモクセイの香りが漂えば、秋を感じる人はとても多く、秋を代表する花木といえるでしょう。ヒイラギと同じモクセイの仲間で、葉腋に直径4~5mmの花をたくさんつけます。花色が橙黄色なのでキンモクセイと呼ばれます。中国原産といわれており、日本では雄木しか見られないといわれていますが、異説もあります。葉は普通全縁ですが、時に上半分に小さな鋸歯が交じります。類似種のギンモクセイ（写真3右）は花が白く、葉には小さな鋸歯が多数ありますが、個体によって変異があります。

場所：管理事務所前、学習展示館前他

緑化センターホームページ（<http://ryokka-c.jp/>）に開花状況を掲載していますので、ぜひご覧ください。また園内にも、各月の開花マップがありますので、来園の際にはお立ち寄りください。

開花等の詳細は緑化センター管理事務所（082-899-2811）へお問い合わせください。

★園内開花情報まとめ

開花	キンモクセイ、ギンモクセイ、サルスベリ、アベリア、アケボノソウ、アキチヨウジ、ヒガンバナ、マツムシソウ、ツユクサ他
----	-----------------------------------------------------------



写真1左 アケボノソウ（東山作業路） H27.9.21



写真1右 マツムシソウ（管理事務所前） H27.9.21



写真2左 ヒガンバナ (管理事務所前) H27.9.21



写真2右 アキチヨウジ (中水池下) H27.9.21



写真3左 キンモクセイ (管理事務所前) H27.9.21



写真3右 ギンモクセイ (見本園) H27.9.21